

1. 香港系カジノ、パイリン売却で黒字転換

米ナスダック上場の香港系カジノ運営会社エンターテインメント・ゲーミング・アジア(EGT)が1~3月期決算で、2年ぶりに黒字に転じたことが明らかになった。カンボジア西部パイリンのカジノを売却したことなどが奏功した。EGTは2012年5月、250万米ドル(約3億円)を投じてカジノ「ドリームワールド・パイリン」を開業したが客足が伸びず、14年6月に50万米ドルで売却していた。またプノンペン市内の総合カジノリゾート「ナガワールド」からの増収も黒字転換に貢献した。

2. タイ運輸省、カンボジア行き越境のトラックやバス、500台に引き上げへ

タイ運輸省は、カンボジア行き越境のトラックやバスの台数制限について、現在の1日40台から3年以内に500台に引き上げたい方針だ。同相によると、タイ・カンボジアの国境検問所は計6カ所ある。しかし、トラックやバスが運行しているのはタイ東部サケオ・カンボジア領ポイペトと、同トラード・カンボジア領ココンの2カ所だけ。運行している40台の内訳は、貨物輸送トラックが37台、バスが3台となっている。アーコム運輸相は、運行台数を増やすことが両国間の貿易や観光の促進につながると説明した。

3. イオンモール・プノンペンの近況

①イオン、プノンペン郊外に2号店か

イオンモールが、プノンペン郊外の新興開発地カムコ・シティーにカンボジア2号店を出店することを計画しているもようだ。カンボジア2号店は、敷地面積は10万平方メートルになる計画で、開店時期などは明らかになっていないものの、投資額は1号店を上回るという。イオンモールは昨年6月30日、プノンペン中心部にカンボジア1号店となるイオンモール・プノンペンを開業した。投資額は約200億円で、施設の延べ床面積は約10万400平方メートル。当初からカンボジアで5店舗を展開する目標を掲げていた。カムコ・シティーへの出店が実現すれば、カンボジアで初めてイオンが主力とする郊外型の店になる。カムコ・シティーはプノンペン中心部の北3キロ地点に立地。韓国系企業が2000年代から進めた大型開発で、メーンバンクの釜山貯蓄銀行の不正融資事件などでいったん停滞したが、近年になって再開。集合住宅などが開発されている。

②オープン時と今の比較

およそ200万ドルをかけてオープンしたイオンモールだが、10ヶ月がたった今、少なくとも7店舗が撤退したようだ。しかしこの数は、イオンモールに入居しているテナント総数の7/190に過ぎず、しかもほとんどが飲食店であり、イオンモールの経営にとっては、大きな痛手とはならないと思われる。撤退の理由は、集客力のなさ、建設工事の問題、そして、客があまりお金を使わないことなどだ。撤退した店舗には、Brownと経営を同じくするFOX Wine Bistroや、現地のレストラングループCBM社がシンガポールのチェーン店と提携して開いたMiam Miamなどがある。また、Ya Kun Kaya Toast(シンガポール)、Kushiage Kushisho(日本)、Pao Pao(日本)、Espada(カンボジア)、Amadana(日本)も撤退。フランスのベーカリーチェーンEric Kayserは、モール内にある小さなベーカリーは残すものの、テラスアベニューに設けているレストランはクローズする予定。

オープン以来1200万人が来場したとされているイオンモールであるが、今月テナントに対して行った取材によると、売上を含め経営が困難な状況にある、と答えたところも少なくなかった。FOXを経営する企業の業務執行社員であるChang Bunleang氏は、「毎日多くの人がモールには足を運んでいますが、ここでレストランなどにお金を使う人は少ないと思います。周囲の環境がひとつの理由でしょう。特に、テラスアベニューのレストランに来る人は極めて少ないように思えます。だから撤退することに決めました」と明かした。「隣国のショッピングモールは、オフィス街が周りにあり、仕事の後に多くの人が直接集まってきます。しかしイオンは、周囲に全くオフィスがありません。だから人々は遠くから車で来るしかなく、駐車場はモールの最上階です。だからグランドフロアの外にあるテラスアベニューまで、彼らが来ることはほぼないのです」とBunleang氏。

また、Eric Kayserのカンボジアフランチャイズを経営しているAlex Matcheret氏は、「イオン内のいくつかのスポットには、集中して客が集まっています。しかしテラスアベニューまではあまり人が流れてきません。イオンに来て、すぐにモール内に直行するので、テラスアベニューを通る必要がないのです。イオンは、集客の仕方を変える必要があるでしょう」と話した。Matcheret氏は、7月に新たにVattanac Capitalタワー内にEric Kayserをオープンさせる予定であると話し、イオンで感じる他の問題点も挙げた。「テラスアベニューに隣接して建設される予定の、立体駐車場のことも厄介です。駐車場の工事でテラスアベニューの景観は一変し、客のアクセスも悪くなりました」、と彼は話した。同じくテラスアベ

ニューに The Original Steakhouse を経営している Jean-Pierre Muselli 氏は、「立体駐車場の影響を深刻なほど受けています。12 月に建設が始まってから、売上は目に見えて悪くなりました。オープン以来 40 パーセント売上が落ちています。工事が始まり、レストラン近くには現在駐車が不可能なので、お客さんは皆よそのお店に行ってしまいます。現在は毎月赤字です」と話した。

今週、イオン蒲ノンペンの社長である Yajima Makoto 氏にメールによる取材を行った。彼は、企業が撤退していくのは残念だとして上で、しかしある程度の撤退は通常の想定内である、と述べた。「もちろん、テナントが閉まってしまうのは残念なことです。しかしモールを運営していくうえで大切なのは、いかに客の需要に見合った店舗を出せるか、ということです。だから需要に合わなかった店舗は去り、また別の企業が参入する。その流れは特に問題ではありません」、と述べた。立体駐車場の建設に対してテナント側が非難していることについては、質問に回答しなかった。

Cambodia Hotel Association の代表 Luu Meng 氏は、「カンボジアの商業的な発展は、イオンモールの成功にかかっている、と言ってもいいでしょう」と話す。「もしイオンが失敗すれば、今後の投資をためらう人も増えてきます。しかしもしイオンの業績が向上すれば、国はもっと投資を募ることができるはずです」と話した。Meng 氏はモール 3 階にあるクメール・ワールド・フードコート の株主であり、また、テラスアベニューの Khema を経営している Thalix グループのディレクターである。

4. 2014年度の失神事件

①2013年度の縫製工場やシューズ工場での失神は半減

縫製工場やシューズ工場において失神を起こす労働者の数について NSSF の発表したレポートによると、2013 年ではおよそ半分にまで減少したことが明らかになった。労務省の機関である NSSF は去年労働者が失神を起こしたのは 823 人で、これは 2012 年の 1686 人の半分ほどであると発表。2011 年では 1973 人であった。去年の失神事故は大半が 1 月から 4 月、6 月から 10 月という期間に起こっている。「これは、工場がシバイヤーから大量のオーダーを受けた時期とかぶっています」とのこと。めまいや嘔吐、息切れなどに代表される心因症も多く発生している。この心因症は不適切な食事や工場内の悪劣な環境が原因だと言われている。労務省の Ith Sam Heng 氏は、失神者の数を減らすことにもっとも貢献した要素として NSSF の労働者教育が挙げられる、と同時に発表。「労務省は労働者の失神については十分注意を払っています。それでも、職場のアクシデント発生数をゼロにするのはこの国に限らず不可能なことです」との声が聞かれた。しかし Sam Heng 氏は、労働者の残業時間を 1 日 2 時間までに規制する必要がある、と主張。「2 時間を超えてもこっそり働きたい、という労働者もいます。しかし基準はきちんと守ってもらいたいです」と述べた。

Community Legal Education Center のコンサルタント Joel Preston 氏は、昨年の労働者の失神件数について正確な数はわからないものの、減ったことは確かである、と話す。昨年 3 月に労働者の最低賃金は月額 61 ドルから 75 ドルへと値上がりしたため、これが失神件数の減少に役立ったのでは、と予測している。「賃金の額と労働者の失神については、密接な関係があると私達は何年も主張し続けていました。もしも、もっと賃金を貰えたなら、失神なんて誰も起こさなくなるでしょう」と彼は言う。Free Trade Union の代表 Chea Mony 氏は、労働環境が劣悪なまま一向に改善せず、労働者が失神し続けている工場もある、と話す。「飲み水さえ不十分なところ、残業がいまだ強制的であるところなどがあります」と述べた。Garment Manufacturers Association in Cambodia の事務局長 Ken Loo 氏は、失神者の減少があったからといって原因がはっきりしたわけではなく、きちんと突き止めるべきはある、と主張している。

カンボジアの縫製業において労働者の失神が多く発生するのは、長時間の労働によるものではなく個々の健康管理への意識への低さが原因である、と National Social Security Fund (NSSF) ディレクターが発言。1 年に 1 度行われているこの会議ではメインのトピックは来年から施行予定の年金制度に関するものであったが、同じ場で NSSF ディレクター Ouk Samvithyea 氏が、スピーチの中でこの相次ぐ労働者の失神について触れた。「私達は彼らがなぜ失神を起こすのか、その原因をよくよく調査してみました。すると原因は労働そのものではなく、大半が彼らの健康状態から来るものであることがわかりました」と Samvithyea 氏。「例えば彼らはたとえ頭痛がしていたり、体調不良を感じていたりしていたとしても、医者に行くようなことはしません。お金がとてめにかかっているからです」と続けた。

この会議が行われる少し前に、同じ日に別の 2 つの工場において、100 人以上の労働者が失神するという事態が発生していた。Kampong Speu 州にある SHIMANO 工場では金曜日に 28 人が失神を起こしたが、Free Trade Union 代表はそれに関して、原因は工場で使用する糊の匂いだ、と話している。また、Kandal 州にある Crystal Martin (Cambodia) Limited では 120 人が失神しており、その日に使用されていた酸電池の匂いが原因だと、労働者側からは訴えられている。

②2014年度は合計9件で789人—横ばい

2014年度の失神者は、合計9件で14工場の789人で、2013年度の823人と比較して、ほぼ横ばいであった。具体的な工場名や所在地を以下に一覧で示しておく。2014年度も2月から9月までに起きており、工場の繁忙期と重なって

いる。しかし工場で、失神者が連鎖的に続出する現象は、やはりカンボジア特有のものであり、今後の抜本的調査が望まれるところである。もっとも2015年度からは、最低賃金も128US\$となり、労働者の平均月収は150US\$を越えるようになっている。これが労働者の栄養事情を改善させ、失神者を激減させるかもしれない。2015年度前半は、失神者のニュースが少ない。

	総件数	州	工場	数	原因
1月	0件				
2月	2件	コンボンスプー州	SHIMANO 社工場	100人以上	シューズに使用する糊の強い匂い
		カンダル州	Crystal Martin (Cambodia) Limited 社	120人	他の労働者の失神する光景を見て
3月	0件				
4月	1件	プノンペン	Shen Zhou Group 社	161人	昼食の鶏肉の疑い
5月	0件				
6月	4件 (3工場1高校)	プノンペン	Huey Cheun 工場	29人	不明
		コンボンチュナン州	Jiun Ye 縫製工場	36人	扇風機が非稼働
		コンボンチャム州	Hun Sen Pearn Chikomg 高校	23人	不明
		スヴァイリエン州	Ging Ko 2 縫製工場	50人	不明
7月	1件	カンダル州	Sixplus Industry 縫製工場	140人	悪臭?
8月	1件	プノンペン	Vattanac 工業団地内の6工場	130人	悪臭後、連鎖的に失神者を見て失神。 集団心因性疾患?
9月	0件				
10月	0件				
11月	0件				
12月	0件				

以上